

自然と暮らし、自然に学ぶ、豊かな暮らしを考える情報誌

ご自由にご覧下さい
TAKE FREE

2016.9
Autumn Issue

#20

ふんわり

[宮城版]

ハタチからが、
だんぜん
面白いよねー。

日本の森バイオマスネットワーク

サステイナブルな木造建築
「板倉構法」

くりこまくんえん

煙りの恵み、木酢液

特集

20 × 20

くりこま高原自然学校20周年&ふんわり20号



森林認証紙と大豆油インキを
使用して作りました。

ふんわりズム、 ふんわりスト。 ism + ist

それぞれの場所で輝きながら、
スッと立っている人がいます。
しかも、ふんわり。
そんな人たちに、会いにいきました。
ふんわりの、巻頭リレー。

みのわだがま

三輪田窯

窯主
亀山 英児 さん

Eiji Kameyama



奥様が営む移動カフェ「かめかふえ」は、三輪田窯のイメージを車に詰め込んで、広報役も兼ねながら、コーヒーやペーグルを販売しています。

三輪田の土を、器として花咲き実らせて、使う人の暮らしの中に根付かせていく。子どもたちや若い人たちから、「ものづくりびと」が増えてほしいという気持ちも温めながら、亀山さんの制作は続いていきます。



特別ではない、普段使いの器。



石巻市河北町、北上川のほとりにある三輪田地区。深い森を背にたたずむ、木造の分校跡。神奈川県出身の亀山英児さんは、仙台の「堤焼・乾馬窯」での修行を経て、平成15年に三輪田窯を築きました。

豊かで厳しい自然に囲まれた暮らし。天然の素材を作品に活かすため、石巻周辺から粘土を採ったり、上品山の岩石や雄勝の硯石、粉殻灰・貝殻などを配合して釉薬にしたりと、試行錯誤しているそうです。

創作の日々で大切にしていることは、日常の中にある小さな変化にどれだけ気付けるか。例えば、草花を眺めて、その美しさや形がどのように創られているのか、じっくりと観察し、考えることが作品づくりにつながっています。

亀山さんの器は、特別なものではなく日常使いのための「生活の器」。できるだけ対面販売にこだわって、直接手に取って作品を味わってほしいと考えています。お客様が最初に手に取ったときの表情や、言葉以外にも表れる反応大切に、作品を手渡しているそうです。

創作の日々で大切にしていることは、日常の中にある小さな変化にどれだけ気付けるか。例えば、草花を眺めて、その美しさや形がどのように創られているのか、じっくりと観察し、考えることが作品づくりにつながっています。



住むこと、つくること。

data & information

〒986-0124 宮城県石巻市三輪田字浪前1-1
<http://minowadagama.jp/>
info@minowadagama.jp
 かめかふえ
<http://kamecafe.jp/>

工房・住居を探索しこの場所へ。地元の方達との出逢いからこの地域の粘土に辿りついたとか。

工房には生活の気配がそこかしこに溢れています。これが作品に漂う落ち着いた雰囲気のコツかもしれません。

日常の、小さな美しさを見つめて。

f-ist
20
F-present
プレゼント
応募券

マガカッププレゼント
応募券を貼り、編集部までご応募ください
《抽選で1名様》締切 2016.11月末



	ふんわりズム、ふんわりスト。
02	特別ではない、普段使いの器。 亀山英児さん
	特集
04	くりこま高原自然学校20周年&ふんわり20号記念 ふんわり座談会
	くりこま高原自然学校
07	もりのだいどころ 座談会スペシャルカレー
08	開校20周年 くりこま高原自然学校20周年に寄せて
08	ふんわりレビュー のびやかに自分になる
09	ちょこっとコラム 育ちと学びの場の多様性を考える
	手のひらに太陽の家
09	みんなのスペース「手のひらに太陽の家」
	日本の森バイオマスネットワーク・しんりん
10	眠れる森への招待状 サスティナブルな木造建築「板倉構法」
10	森を守る新しい林業イノベーション
	くりこまくんえん
11	煙りの恵み、木酢液
	サスティナライフ 森の家
12	板倉の学び舎 日能研大船校仮設教室
	アースクエスト
13	Start! Seakayak スウィープストローク
	森のようちえん虹の森
13	ゆらゆらきらきら
14	イベントカレンダー
16	フンワリポート 平泉ジェラート

04



13



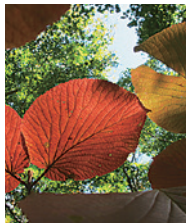
編集長 ぽすとすくりぷと

おかげさまでVol.20。年に4回の発行です
から、5年間。続けてこれたのも読者の
皆様のおかげです。ありがとうございます。
これからも、肩肘張らずにふんわりと、「豊
かな暮らし」とは何かを感じていける誌面
にしていきます。これからもよろしくお願
いいたします。

No staples.
ホチキスを
使わずに。

Cover Photo

寒い冬のちょっと
前、ふと見上げる
と、色とりどりの森
の中。



ふんわりではホチキスを使用していません。リ
サイクルするときのことを考えて、このような形
でお届けします。ちょっと不便だけどちょっとや
さしい。どうかご理解ください。

2012年1月から始まった「ふんわり」は今号で20号。奇しくも、編集団体のくりこま高原自然学校は9月で開校20周年。今回の特集は、ふたつの[20]の記念特集として、「ふんわり」、そしてくりこま高原自然学校はじめ、編集団体が目指す暮らしを見つめ直します。

20 × 20

くりこま高原自然学校20周年&ふんわり20号

f-features



ふんわり座談会



大場 寿樹 HISAKI OBA

(一社)くりこまツーリズムネットワーク事務局長。栗原市で生まれて育つ。ずっと栗原市。今の仕事を熱望し、役場職員から転職。団体の会員は市民。農業体験や地元食の料理教室、しめ飾り作り、マガンの観察会、地域をキーワードに多種多様なイベントを年間約150回開催。

CHISATO YATSU 谷津 智里

フリーで地域プロジェクトのコーディネートや編集・ライティングを行う。東京出身、白石市在住。ご主人の家のため8年前に宮城県へ。地元でミニコミ紙を制作するほか、松島湾の文化を見直し楽しむ「つながる湾プロジェクト」や、まちづくり人材を育成する「伊達ルネサンス塾」の運営に携わる。



加賀 浩嗣 KOJI KAGA

木匠家「カガモク」。大阪出身、1年前に鳴子に移住。元くりこま高原自然学校の実習生。ふんわり編集部のNPO法人しんりんの森がご近所の縁で、ふたたびつながりができる。地元の木材、自然に親しむ物、特に鳴子にちなんだけしき雑貨を制作している。

加賀 道 MICHİ KAGA

カガモクの妻。鳴子出身、大学進学後は地元を離れるが、地元に戻りまちづくりに関わるために、まちづくりも支援する助成財団に勤務。その後、田舎に住みたいパートナーを見つけてUターン。在宅勤務で仕事を続けながら鳴子で子育てしつつ、地元での活動を画策中。

TOSHIYA TSUKAHARA 塚原 俊也

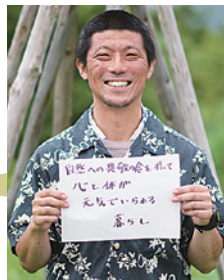
くりこま高原自然学校。神奈川出身、中学・高校の理科講師から、実践を学ぼうと栗駒に来てからあつという間に12年。2児の父。こどものキャンプ、ガイド、なんでもござれだけど、暮らしにまつわるものづくりも好き。

倉田 緑 MIDORI KURATA

NPO法人日本の森バイオマスネットワーク／NPO法人しんりん事務局。きこり。学生の頃から森林好き。今の主な仕事内容は、木、森、木質バイオマスの促進と鳴子で林業。森に牛をいれてみたり、馬をいれてみたり、草刈ってみたり、森に関わる様々な形を展開している。



参加者プロフィール



自 然学校の暮らしにも通じる、ふんわりのテーマ「自然と暮らし、自然に学ぶ豊かな暮らしを考える」。自分のこととして考えることなごたるうう。今回は、森で働く、自然の中での暮らし、ものづくり、地域、そんなキーワードがびつたりのみなさまに、ふんわりのテーマについてお話しいただきました。座談会とは、テーマについて気軽にしゃべりあうということ。みなさまも、肩の力を抜いて気楽にお付き合いください。

みなさんが手に持っているのは座談会後半で伺った「豊かな暮らし」とは？のキーワード。



ほくも
ざだんかいする一、と。

大場 うちの団体では、地域で採れる食材を余すところなく食べ切るための工夫を詰めた冊子を作ったのですが、地域のお母さんたちとやっている「食ツーリズム研究会」で作りました。時代によってレシピに変化はありますが、基本的に家族が暮らすために、お母さんがどうにか家族のお腹を満たすために作ったもの。そんな工夫が今の時代は生きるためというより、楽しむところどころで注目してもら



浩嗣 本能的なものじゃないでしょうか？文明がなくて、自然が好きでというより、人間が生きてのために料理などをしてきて。でも今は何もしなくても文明が発達して生きていけるけど、本能的なところで残っているんじゃないかな。自然が好き、というのは理屈ではない。

“自然と暮らす”とは？

太陽 (塚原)

太陽のエネルギーを意識して暮らすこと。畑や林業などやっているが、太陽のエネルギーで植物が育ち、それを人も生きものも食べている。

工夫を楽しむ (道)

自然からいただいた季節ごとの恵みを工夫して楽しむこと。ありがたい一方、困ってしまうほどの季節の恵みをどう料理し保存するか、その工夫を楽しむことが醍醐味。

地形・気候 (谷津)

その地形や気候に沿って人間の文化を作っていくこと。日本でも世界でも、地形や気候によって家の形や食事が変わり、それぞれ豊かな文化ができています。

家 (大場)

家のある場所。家のある場所で自然との距離感が変わり、それが人を作る。栗原市は山際に山をしょって家があり、平場には田んぼ。そうして暮らしが成り立っている。

cultivate (倉田)

耕すこと。日本の暮らしは、自然が大事で尊敬を持っているが、暮らしのために手を入れている。自然を俯瞰するよりも、自然にどンドン入り込んで、もらっていきたい。

変化を感じる (浩嗣)

四季の変化を、身をもって感じ、土地も自分も生きている。生命を感じること。自然がある場所の暮らしは、自然の変化の過程を暮らしの中で身をもって感じられる。



谷津 工夫を楽しむ、は、私も宮城に来て感じています。例えばタケノコは、東京ではスーパーで水煮のものを買って食べたいけれど、今は生のタケノコをもらってその日のうちに下ごしらえをして食べると、ものすごくおいしくて。たくさんあるけどどうやって食べよう？と、そういうことがすごく楽しいです。その季節だけだからこそ、なんとかおいしく食べ切ろうという気持ちになりますね。



塚原 季節感や食べ物のこと、昔は生きるための工夫だったけど…。

えるのかなど。自然との距離感を食で考えるとわかりやすいのかもしれないですね。
塚原 うーん、なんでこういうことを人は求めるのでしょうか？
一同 笑

動物としての本能なんじゃないかな。
谷津 自分が何に生かされているのかっていうのが理屈じゃなくて体でわかるのは、自然の近くにいる方が、より分かってくるなと思います。

大場 自然の中に入って耕すという倉田さんの話を聞いて思ったことですが、マガンの観察会をやっている伊豆沼内沼は、半分くらいの面積は干拓で田んぼになっていて、そこを耕し続けることによって、マガンが越冬してきてもエサに困らない状況になっています。実は、自然観察よりも好きなところで、僕らの少し前の人々が節度ある干拓をしてくれたことによって、今、豊かなところが見えるんだなって。ちょっと意識すると、すごいこと。あとは、迫川にもぐり橋という橋があるのですが、増水に耐えられるものではなく、増水したらもぐってやり過ごす、という橋。その諦めの度合い、ちょっと前の時代には学ぶことがありますね。人間の力でどうにか制するのではなく、どこかの時点でやりすこす。そういう考え方が好きです。

続く「学び」について…



“自然に学ぶ”とは？

敬う (倉田)

自然や他者を敬うこと。無駄にせずに自然の恵みや命をいただくこと、その学びは自分が生きていくこととつながっている。

忘れない (塚原)

自然に対する畏敬の念を忘れない。技術は技術でちゃんと使う。地球はひとつ、みんな同じ船に乗る乗組員だから、限られたものをどうやって使うかが大切。

生きる (大場)

自然からの恵みである食糧やエネルギーを、生きるための物事に交換すること、その技術のこと。仕事では、その技術を体験プログラムとして学びにしている。

おごらない (谷津)

人間の知恵は素晴らしいが、どこまでいても地球の上に生きている状況は変わらない。自然の様々な物事に対応すること、その大変さが自分の生きる糧になる。

芸術 (道)

自然の中には芸術のヒントがたくさんある。絵を描くようになって、自然の中の見方が変わった。花の形や虫、いろんなところに素晴らしい芸術がたくさんある。

自分の思う通りにはいかない (浩嗣)

自然の中で身の程を知り、いかに豊かに活用していくか一生懸命考えること。子どもたちにも、自然の摂理をしっかりと学んでほしい。

谷津 友達に寒いといきたくないって言われますよ。笑
塚原 作物育てるにも、チャンスは一回しかないです。二期作はできない。仕事で日本中のいろんなところに行きますが、鶏小屋ひとつにしても、こんなんでいいの？というところがあります。枠と網だけとか。いいなあつて。

大場 岩手に行くと、屋根の下あたりに鶏小屋がありましたよ。夕方になると鶏はそこに戻る。雪が降るから母屋の屋根の



塚原 浩嗣さんの「思う通りにいかない」は、僕も東北に暮らすようになって実感しています。東北には、どうにもならない寒さ雪とか、西や南とは違う自然との付き合い方があると思います。考えなくてはいけないこと、備えないといけないことがいっぱいあります。

大場 雪の量と氷点下も考えないといけないからね。

という。

塚原 先日、取材(ふんわりすと参照)で、石巻で陶芸家にお会いしたのですが、陶芸は、道具でもあり芸術でもあつて。その方は日常の中から変化に気づき、それが作品へとつながる、と言っていました。それから浩



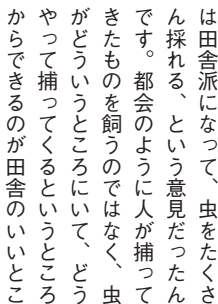
一角に鶏小屋がある。そこに飛んで入っていました。

倉田 馬とか牛とかの曲り家もそうですね。

大場 畏敬の念というのは、ほんの数十年前まで、仏さまがいて、神様がいっぱいいて、祈ったりすることでしか、危険や災害、それを避ける力がなかったんですよ。それに対する姿勢が、今よりもう少し前の時代はものすごく強かったことを、暮らしの行事が多いことから感じます。

谷津 芸術もつながっていますよね。芸術は自然との対話、祈りから出発していると思うので。まさに、(道さんの言葉)

塚原 捕るまでの過程ですね。森できこりの仕事している倉田さんはどうですか？

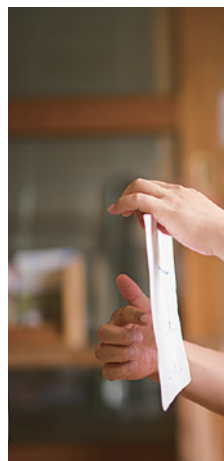


谷津 小学校の授業参観でデイベートをやったのですが、テーマは、田舎に住むべきか、都会に住むべきか。自分自身の意見とは関係なく分かれて、息子は田舎派になって、虫をたくさん採れる、という意見だったんです。都会のように人が捕ってきたものを飼うのではなく、虫がどういうところにいる、どうやって捕ってくるというところからできるのが田舎のいいところだ。なかなかいいですよな(笑)。簡単にお金を出して買うのではなく、どうやれば捕れる、というところに工夫や知恵がついてくる、と。

嗣さんの言葉、自然学校は冒険教育もやりますが、キャンプではこちらから言ったり、子どもたちが勝手に感じたりしています。雨でも雪でも、そのせいにできない状況があります。



倉田 きこりは、木を伐るといふより、森を守る、森で生きていくということをしているなとつくづく感じます。自然のスピードは、現代社会のスピードと全く合っていないので、経営などの面では工夫が必要だと思います。でも、森のスピード通りにしなければどうにもならない。山に入らないと決まっている日があるのですが、いままですっと先人たちがいろいろやってきた上で、入らない、伐らないことになっているんです。それは、どんなに時代が変わっても、その時代の価値観やスピードに合わせなくてもいいところだと思います。それから、常に死と隣り合わせだということも



この後も座談会では活発な意見が交わされました。全てをご紹介できないのが残念ですが、くりこま高原自然学校20周年誌に完全収録の予定です。

日々感じています。森の中の仕事はいつもピリピリしているし、木の声、山の声、自然全体に耳を澄ませないと、自分も死んでしまうということがあります。そのためにもどうしたらいいか検証されたものも学ぶし、自分で学んだこともあります。まさに思い通りにはいかない。そういうことが生きていくことだと思っています。



生 まれも育ちも現在の仕事も様々な6名の方々。それぞれの視点からの言葉は、表面だけ見るとばらばらに見えますが、突き詰めていくと、自然に対する感謝、畏敬の念、親しみ、昔の知恵に対する尊敬の気持ち…同じ場所に行き着くのではないのでしょうか。同じものを持ちつつも、その人によって現れる形は様々。みなさまの「自然と暮らす」、「自然に学ぶ」は、どんな風に現れているのでしょうか。

お問合せ
0228-46-2626
もしくは
kouei@kurikomans.com
まで



座 談会会場はくりこま高原自然学校。せっかくみんなが集まったので、お昼はそのままがっちの「もりのだいどころ」を味わおう！ということに。座談会スペシャル「牛すじ肉のカレー」。レシピはFacebookページにて！

料理は、暮らしの中の一番身近なものづくり。ご近所からのいただきものや旬の食材でせっせと作ります。特別じゃないけど、贅沢。そんな愛おしさ満点の料理、さあ召し上がれ！

File.20 座談会 スペシャル カレー



すがっち

もりのだいどころ

Funwari-Kitchen

くりこま高原自然学校の胃袋担当。シンプルなのに、おいしい料理にはスタッフならずとも、多くのファンが。

くりこま高原自然学校20周年に寄せて。

くりこま高原自然学校20年の歴史 ■ 佐々木豊志（一般社団法人くりこま高原自然学校代表理事）



野外教育や冒険教育、さらに環境教育の領域を意識し、その実践の場として自然学校は1996年に開校しました。その年に、中央教育審議会の答申で示された「生きる力」を育む実践の場としてもスタートし、1998年には文部省委嘱事業「子ども長期自然体験村」、2000年からは不登校・ひきこもりの若者を支援する長期寄宿制度の「耕英寮」を開設しました。2002年からはWWOOFerを受け入れ、2003年に「NPO法人くりこま高原・地球

の暮らしと自然教育研究所」を設立し、『自然と共存し持続可能な平和で豊かな暮らしを創造する「人」と「社会」のための取り組み』とそれを実践するエコブレッジ化を進め、農的な暮らしの展開がはじまりました。2005年には「森のようちえん」、2006年には厚生労働省の委託事業「若者自立塾」と、年を追って社会の課題解決のための事業を進めてきました。開校からの10年間で、様々な社会課題の解決のための事業が広がり、さらに充実させるべく展開し

ていきました。

そして、2008年の「岩手・宮城内陸地震」で被災したあの瞬間から自然学校を取り巻く環境は大きく変化しました。避難指示によって2年間にわたり山を降り、2010年秋に再び山に戻った矢先に、東日本大震災と再び大きな震災に遭遇しました。2度の震災で自然学校が取り組む「生きる力」を育む教育の力を試されました。20周年を迎え、自然学校が取り組んできたことは間違いなかった、と振り返っています。

自然学校での暮らし ■ 横田典子さん（福島出身、神戸在住。1998～2001年にスタッフとして過ごす。）

大学4年の時、栗駒文字地区の千葉家で継承されていた「正藍染」に魅せられ、栗駒で働き口を探そうと駆け込んだ役場で自然学校を紹介されました。藍染の見学にも行かせてもらいつつ、自然学校ではお客さんとスタッフの食事作りをするキッチン

スタッフとして3年間を過ごしました。耕英の豊かな自然の中での暮らし、県内外からのお客さんとの出会い、また繁忙期の臨時スタッフなど同世代の「生き方を模索する」若者との語らいなどを通じ、感動したり悩み、考えながらその後の自

分の進む方向性を見つけれられたと思います。現在は関西に住んでいますが、毎年秋に澄んだ空を見上げると栗駒山に会いたくてたまらなくなります！

FunwaReview

編集部員の本棚より

くりこま高原自然学校
塚原俊也

自然学校で働き始めたころ、キャンプ中に子どもとのかかわり方で迷った時に、読み返していた本です。この本には、学びも、気づきも、癒しもあります。他者に共感すること、自分に気づくこと、子どもも大人も「のびやかに自分になる」ヒントのつまった本です。

のびやかに自分になる

TOEC文庫 2000年6月18日発行 900円

<http://www.ne.jp/asahi/outdoor/toec/bunko.htm#hon> ※左記URLよりご参照ください。



伊勢達郎 著

1985年より徳島県にて「自然スクールTOEC」を運営。社会に新しい学校のスタイルを発信・提案している。

青春の学びの場 多様性を考える

80年代、団塊ジュニアとして育ってきた私は、学校教育で様々なことを学んだ、すばらしい先生や友人たちにも出会ってきた。しかし今の時代自分がそうだったからと言って、次の世代もおなじように皆が当たり前のように学校に通うスタイルだけでいいのだろうか？ フリースクールやホームスクールや自然学校などオルタナティブな学びの場の選択肢がもっとあっていいはずだ。

では、なぜ学校に行くのか？義務教育だから



くりこま高原自然学校

ちょこっとコラム。



らというにはあまりにも不用意ではないだろうか。全てのことにメリットがあればデメリットやリスクだってある。メリットとして教科教育はもちろんそうだが、社会性が身につくという考えも多いだろう。しかしその社会性とはだれにとって望まれる社会性（均一性）なのか、大人はよく考える必要がある。私の考える社会性は自分の考えをしっかり伝え、相手の話も聞く高いコミュニケーション力や仲間と協調したりなど社会で生きていくための能力だと思うが、一步間違えると今の日本の社会性は、自分の考えを押し殺し、右へならえの金太郎飴状態に陥ってしまうのではないだろうか。

尾崎やブルーハーツを聴きながら、「大人たちって」と思っていた、あの頃の自分は大人になって、親になって、どんな育ちと学びの場を子どもたちに用意していくのだろうか。☒



塚原俊也

くりこま高原自然学校のアクティビティ担当。運営から指導まで八面六臂の大活躍。静かに燃える闘志は炭火のように強く温かい。

みんなのスペース 「手のひらに太陽の家」



一時間よりお部屋の貸し出しを受け付けております。いろんな使い方で利用の可能性が広がる「手のひらに太陽の家」です。詳細は下記までご連絡ください。☒

手のひらに太陽の家は、出会いの場、学びの場として皆さんにご利用いただいています。玄関を入ってすぐの中央1階は、小さなお子さん連れでも安心してご利用できる「みんなのカフェテラス」が営業。2階の広いスペースは自由遊び場として解放していますが、時には親子で楽しめるイベントスペースになります。左右にのびる小部屋スペースは小グループの勉強会やワークショップにも最適。庭には畑や田んぼ、ピザ用の石窯もあり、BBQセットも貸し出しています。田んぼに囲まれたロケーションのおかげで、近くには、ザリガニやどじょうとりにも夢中になってしまいう水路も。ここでは子供たちもお友達。

手のひらに 太陽の家

tenohira-press | 通信 |

手のひらに太陽の家
応援会員制度ができました！

https://www.pne.club/taiyounoie_new/

一般社団法人くりこま高原自然学校

tel : 0220-23-9755 FAX : 0220-23-9756

e-mail : kouei@kurikomans.com



mont-bell

日本の森
バイオマス
ネットワーク



手のひらに太陽の家では研修宿泊、ワークショップ、イベント時のレンタルスペースの利用など、ご希望にあわせてご相談に応じます。ぜひ一度お気軽にお問い合わせ下さい！

持続可能な サスティナブルな木造建築 「板倉構法」

「板倉構法」という設計と、しっかりとした木材、そして大工の技術によって、場所を変え、使い方が変わっても使い継ぐことが可能なサスティナブルな建築なのです。B

「板倉構法」は伊勢神宮などの神社や穀倉として、古くから大切なものを守るための建築に用いられてきました。壁、屋根、床を厚い木の板で囲い木材を沢山使う伝統的なつくり方です。各部材の木を組み合わせて建てている為、壊すことなく解体することができます。このように解体した木材は、再度組み上げることができます。



東日本大震災の仮設住宅の解体



これは、建築に使うことが出来るのに見栄えや品質のバラつきが理由ではじかれた材を活かしたいという、林業を行う私たちからすると、とてもありがたい、まさに林業のイノベーションです。

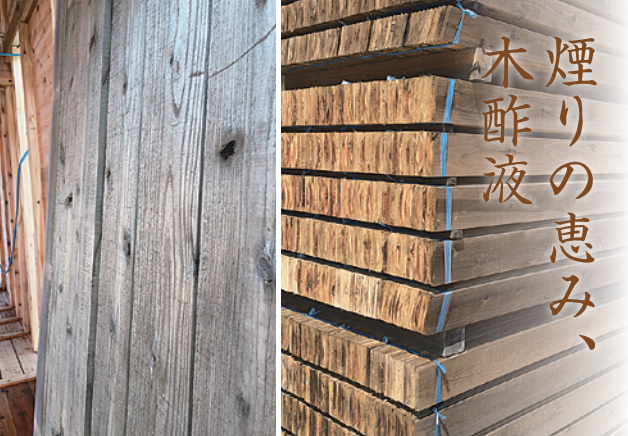
「板倉構法」は森づくりに魅力的です。材となる木一本一本を隅々まで最大限に活かすため、住みに心地よさを、林に風をもたらします。そしてこの度、塾の仮設教室を木造の「板倉構法」で建てることになりました。建て主は株式会社日能研。首都圏を中心に展開する学習塾です。神奈川県鎌倉市にある日能研大船校が、駅前の再開発に伴い仮設の教室を建築するためです。

日能研からの要望で、現在の木材の流通の仕組みでは、途中で建築用材からはじかれてしまう材（例えば、曲がった材、色に変色した材、節が多い材等で強度的には問題のないもの）を積極的に利用してほしいとのことでした。

眠れる森への招待状



森を守る
新しい
林業イノベーション



煙りの恵み、 木酢液

木酢液は簡単に説明すると、燃料も木材の端材を燃やし煙で燻した際に発生する煙を冷却することによって、作ることができる天然成分の消毒液のような物です。

くりこまくんえんでは、木を燃やし『くんえん処理』を行っており、その際に発生する煙を回収・冷却し、木酢液を作っています。(この回収装置ももちろん手作り!! 資源の有効活用してます!!)

くりこまくんえんでは、この木酢液に屋根や壁の下地材を漬けこんで、販売しております。

また、野菜や花へ希釈して散布したり、使用方法はさまざま。

くりこまくんえんは、これからも薬に頼らない、安全な木材を生産していきます。



日能研大船校仮設教室では、外壁仕上材に木酢液に漬け込んだ木材を使用します。

スタッフ紹介

遊佐佳憲

(製材グループ)

製材グループ期待の新人!
今日も黙々と作業をこなしています。



KURIMOKU

栗駒木材

株式会社くりこまくんえん

〒989-5401 宮城県栗原市鶯沢袋島巡44-7

☎0228-55-3261 info@kurimoku.com

<http://www.kurimoku.com/>

※リニューアル中Facebookにリンクしています。



丸太を斜面から降ろす



集めてきた材を
バックホーで2t車に積み
製材所に出荷。



製材された材は大船へ。
(次ページへつづく)

手入れをしないままだと
林にも風が吹き込みません。



NPO法人 しんりん ☎0228-22-6721 <http://shinrin.org/>

Ⅲ 一世代前の先人が植えた木を収穫(伐採)し、活かすことで林も手入れが進み、生かされるのです。



未来を育む、木
の学び舎。
循環する技術、持続可能な資源と、

【板倉の学び舎】 日能研大船校仮設教室

「木質」が生み出す学習効果はもちろん、「木の命」と子ども達が出会ったときに生まれる「学び」を大切にしたい。変化するものと変化するものが出会うから生まれる「持続可能な学び」を大切にしたい。「仮設」という状況をなんとかして「学び」とつなげたい。その想いが日本の伝統的な「板倉構法」を選択、準防火地域での木造仮設教室建設へとつながりました。

日能研で子どもたちが熟達させていくのは、未知と出会う度にずっと使い続けることができる「持続可能な学び」。その学びに「環境」からアプローチするという考えから、2012年より「教室の木質化」を進めています。

上棟式ではNPO法人しんりんのきこりさんがマサカリを担ぎ先頭に。式に参加する皆さんを御案内し、木材を大工さんへ引き渡す儀式も行いました。子どもたちも一緒に参列しお祝い。餅まきで使用した餅の数は800個！盛大な上棟式となりました。

そして10月には早くも完成。内覧会を予定しています。

子どもたちにこそ本物を感じて、知ってほしい。

森のことも木のことも、木造建築の伝統技術はもちろん、その文化にも。

板倉の教室がそのきっかけとなるのが喜びです。S



自然をつなげる
持続可能で豊かな暮らし



サステナライフ森の家

カヤックスクールは、レッスンプラン（LP）に基づいて行われます。LPには、レッスンの核となる部分や、段階的な練習、チェックポイントが記されています。前号からアースクエストのLPを紹介しています。

海を知って、
もっと
楽しむべし！



Start! Seakayak

～海を旅する基礎知識～

スタート/シーカヤック

アースクエストのシーカヤックガイド
こんのがご案内いたします。

○スウィープストローク（フォワード）

- ・カヤックの向きを変えるときに使う、基本のストローク
- ・まずは、行きたい方向に可能な限り身体を向ける。（左ターンの場合は、身体を左へしっかり捻る。）
- ※以下、左方向へ前に進みながらターンする場合。
- ・右腕を伸ばして、ブレードのパワーフェイスを可能な限り外側に向け、水を捉える。
- ・そのまま身体を右方向に捻り、ブレードのパワーフェイスがカヤックの方を向

いたら、右肘を体側に近づけるように引き、カヤックの前後軸と並行になる位置までストロークを続ける。

- ・最初と、最後をしっかりと。特に後半、いかにしっかり漕げるかがポイント。
- ・フィニッシュは、真上（同じ方向にスウィープを続ける場合は左肘を上に向けてるようにして斜め前上）にブレードを引き抜く。E

※ブレード：パドルの水かき部分

※パワーフェイス：ブレードの前に進むときに水を捉える面。



フォワードスウィープのストロークライン
(パドルの航跡イメージ)



アースクエスト

検索

夢中になれる！海時間



ゆらゆらきらきら
Yura-yura, Kira-kira

おひさまが傾いて
着る洋服が変わっても
水に惹かれるその気持ち
いつの季節もかわりません

ゆらゆらゆれる
きらきらひかる
気まぐれな水は いつまでも
つかまえられる だからこそ
遊んでくれる いつまでも

ばしゃばしゃはねて
びしょびしょぬれる
みんなの顔も きらきらひかる N

今年も登ります!



虹の森&くりこま高原自然学校 合同企画! 夏の親子キャンプ

📅 9/17(土)~18(日)

栗駒山! 森探検、野外調理、夜の時間も
楽しみに。くりこま高原自然学校にて。

森のようちえん・小学校

📅 9/25(日),10/2(日),11/3(木)祝

テーマは「は・ひ・ふ・へ・ほいく」! 自然の中で、大人
子どももリラックス♪

くりこま高原自然学校

開校20周年記念イベント

📅 9/24(土)~10/1(土)

開校記念weekとして特別プログラムを開催します。エ
コツアーや祝いの宴など、お楽しみいっぱいでお待ちし
ています。

常設プログラム・宿泊利用

📅

栗駒山ネイチャートレッキングガイド、ネイチャークラ
フト、ログハウス宿泊、レンタルコテージなど。栗駒山
の大自然を楽しむためのお手伝いをします! 詳細はHP
でも。

森のだいどころ

📅 9/22(木)祝,10/21(金),23(日),11/18(金),23(木)祝,12/2(金)
,11(日)

みんなで作るアウトドアキッチン&焚き火。泉ヶ岳(き
なりの家)にて。9月から休日も!

森のようちえん きのご組

📅 10/1(土),11/12(土),12/10(土)

落ち葉に木の実、森の恵みがいっぱい、秋の森。今日は
何する?どこに行こう?子どもたちのやりたいことを、思
いっきり。泉ヶ岳にて。※通年コースも引き続き募集!

森のしょうがっこう

📅 10/16(日),11/20(日),12/18(日)

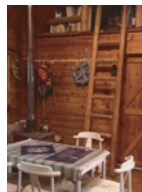
小学生になっても、思いっきり森遊び&小さな挑戦もし
ます。泉ヶ岳にて。

ふんわりグッズ プレゼント

present!



1 mont-bell エマージェンシーシート
非常時の防風防寒用に。アル
ミ蒸着ポリエステルフィルム。
【2名様】📅



2 コテージに宿泊ペアご招
待! 【1組様】📅

3 20周年記念ステッカー&て
ぬぐい 【2組様】📅

4 ふんわりと同じ
森林認証紙で作った
10x10x10cmメモ
【3名様】



1 巻末の応募券とともに希望の番
号を書いてご応募ください。その際
以下の項目もお書き添えくだされば
嬉しいです。

【①よかった記事 ②つまらなかった
記事 ③プレゼント応募の理由 ④プ
レゼントの使い道 ⑤ふんわりを手
に入れた場所】

【日】9/24(土)~25(日)

最低限の道具で住環境を整え野営。最低でもナイフ1本をお持ち下さい。テントの持込み可。ストーブ・バーナーの持込みはNG。

マスターパドラー検定会 中禅寺湖

【日】10/1(土)

カヤック愛好家向けのパドリング技術の検定です。JSCA主催。

中禅寺湖シーカヤックキャンプツアー

【日】10/1(土)~2(日)

前泊スタイルで、渋滞知らず。菖蒲ヶ浜キャンプ場泊。

ナチュラルガーデン作りWS

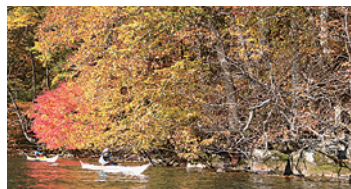
【日】10/3(月)~6(木)

森の樹の家の周りに自然農法の家庭菜園を。

キャンプツーリングの安全管理

【日】10/18(火)~19(水)

JSCA会員研修会。キャンプツーリングの安全管理を実践形式で学びます。一般の方の参加も可能です。



青森・十和田湖紅葉シーカヤックツアー

【日】10/29(土)~30(日)

紅葉の十和田湖ツアー。コテージ泊。

ブッシュクラフトキャンプ 泉ヶ岳

【日】11/19(土)~20(日)

泉ヶ岳麓、サスティナライフ森の家そばの林で、ブッシュクラフトキャンプ！

出島民宿泊忘年会シーカヤックツアー

【日】12/3(土)~4(日)

魚好きの女将が作る、絶品の海鮮料理。旬の物を美味しく。料理は席に着いてから、暖かい物は暖かいうちに出してくれます。お昼ご飯を食べずにどうぞ。

漕ぎ納めツアー 松島

【日】12/25(日)

一年の締めくくりパドリング。ツアー後は、塩竈神社へ参拝します。

初詣ツアー 松島

【日】1/3(火)

アフターパドリングは、海上安全祈願へ。

B 日本の森バイオマスネットワーク
S サスティナライフ 森の家
T 手のひらに太陽の家

2016 September-
December

f-calender

フレンドフェア横浜

【日】9/18(日)~19(月)祝

パシフィコ横浜で開催のモンベルクラブフレンドフェアで私たちの活動をご紹介します！

板倉マイスター1回目チェーンソー講座

【日】10/1(土)~2(日)

板倉構法で小屋を建てます(全3回:各回参加可)。まずは自らの手で立木の伐採!!チェーンソーの資格も。安藤邦廣先生のセミナーも必見。※学割あり

板倉マイスター2回目 製材見学・刻み講座

【日】11/19(土)~20(日)

板倉構法で建てる小屋(全3回:各回参加可)。第2回は製材の見学、自ら大工加工の体験!安藤邦廣先生の講座も。※学割あり

板倉マイスター3回目 自力建設講座

【日】12/3(土)~4(日) (予定)

板倉構法で建てる小屋の建築(全3回:各回参加可)。第3回は刻まれた材で小屋を組み立てます!もちろん安藤邦廣先生の講座も。※学割あり

~自分への信頼を取り戻す力(豊かさ)は、自分自身の中にある~ ゆがふ時間vol.4

【日】10/22(土)

同じ思いをもつ個性的なメンバーが集合のイベント。メイン会場:森の樹の家。

「水槽のある二世帯の家」完成見学会

【日】11/12(土),13(日)

「和sian-cafe aimaki」完成見学会

【日】1月中旬

「スローライフを愉しむ平屋」完成見学会

【日】1月中旬



初日の出ツアー 奥松島

【日】1/1(日)

太平洋から昇る初日の出を、カヤックから。

ふんわり関連イベントカレンダー

詳しい情報は巻末一覧から各団体HPをご覧ください。

24	25	26	27	28	29	30	31
1	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31	

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

M NPO法人しんりん
E アースクエスト

K くりこま高原自然学校
N 森のようちえん 虹の森
R 栗駒木材

わたしたちのこと。

ふんわりをキーワードに集まった私たち。
業種もフィールドも違うけど、ユニークでオンラインで、おもしろいことができそうです。

くりこま高原自然学校

☎ 0228-46-2626
宮城県栗原市栗駒沼倉耕英中 57-1
<http://kurikomans.com/>

栗駒山麓をフィールドに、栗駒山、ブナの森、世界谷地湿原など大自然をご案内します。



森のようちえん 虹の森

☎ 022-343-6479
宮城県仙台市泉区福岡字西森下 39-13
<http://kurikomans.com/nijinomori/>

自然の中で子ども・親・保育者が共に育ち合うことをめざしています。



日本の森バイオマスネットワーク

☎ 0228-22-6721
宮城県栗原市鶯沢袋島 44-7-2階
<http://jfbn.org/>

森と暮らし、山人も元気になる持続可能な社会を目指し、森林資源普及に取り組んでいます。



栗駒木材

☎ 0228-55-3261
宮城県栗原市鶯沢袋島 44-7
<http://www.kurimoku.com/>

伐採・製材・チップ・ペレットと一貫した事業を行っている、材木屋です。お客様が安心して暮らせる木材を提供しています。



NPO法人 しんりん

☎ 0228-22-6721
宮城県大崎市鳴子温泉字玉ノ木 70 番地
エコーの森 内
<http://shinrin.org/>

森林再生と地域活性化を目指し、持続可能な森づくりとこきりの育成を実行中。



サスティナライフ 森の家

☎ 022-725-2775
宮城県仙台市泉区福岡字西森下 39-13
<http://www.sustainlife.co.jp/>

地域の資源や職人の技術を次代に受け継ぐ、「サスティナブルな暮らし」を提案する住宅会社。



手のひらに太陽の家

☎ 0220-23-9755
宮城県登米市登米町寺地辺山 17 番地 1
<http://taiyounoie.org/>

東日本大震災で被災した子どもたちを受け入れている復興共生住宅。環境教育、企業研修、レンタルスペースなど多面的に事業を展開中。



アースクエスト

☎ 022-343-6442
宮城県仙台市泉区福岡字西森下 39-13
(柳銀河自然学舎 内)
<http://eqseakayak.com/>

シーカヤックツアー・スクール、夢中になれる1海時間。



- ☐ 日本の森バイオマスネットワーク
- ☐ くりこま高原自然学校
- ☐ NPO法人 しんりん
- ☐ サスティナライフ森の家
- ☐ 森のようちえん虹の森
- ☐ アースクエスト
- ☐ 手のひらに太陽の家
- ☐ 栗駒木材

記事執筆・お問合せ…記事最後のアルファベットをご参照ください。

ふんわりに広告を載せてみませんか。

詳しくは編集部までお問合せください。

ふんわり 第20号

[宮城版]

[2016年9月10日] 季刊 (年4回発行)

ふんわり編集部

〒981-3225
宮城県仙台市泉区福岡字西森下39-13
☎022-725-2775
funwarinfo@gmail.com

twitter [funwari_miyagi](https://twitter.com/funwari_miyagi)

f freefunwari

Funwarreport フワリレポート!

平泉ジェラート

KOZENJI cafe



地元産の新鮮な野菜と果物で作ったオリジナルジェラート。ワッフルコーンも地元産小麦粉で作るほどのこだわりよう。いわて特産品コンクールで2年連続受賞なのも納得の味わいです。この季節、ブルーベリー色のケーティングカーで移動販売中。見かけたらぜひ!

KOZENJI cafe

岩手県西磐井郡平泉町平泉字樋渡50-2
TEL 0191-46-3066
月曜日定休 (月曜が祝日の場合は火曜日休業)

宮城版 5,000部

印刷: コンカツ印刷
岩手県一関市中央町1丁目7-16 ☎0191-48-5963

点検で切り取り、ご希望のプレゼント番号をそえてご応募ください。
2016年11月31日まで有効
応募券